

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「中国、インド、日本、アメリカの得意」

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

このタイトルにある 4 つの国の特徴を、その国の人には主に何を使うのが得意か、という観点で分けてみたことがあります。私の限られた経験からの分類で、何のデータや確固たる根拠がある訳ではありませんが、このざっくりとした区分けは結構受けました。こんな具合です。

中国は身体を使う国です。ですので、基本的に大規模製造業やインフラに強みを発揮します。オリンピックでメダルも大量に獲ります。

インドは何と言っても頭を使う国で IT 産業が発展しています。反面カースト制度の影響もあり、身体を使う製造業は余り得意ではありません。

これに対し日本は何を使う国かと言うと、やっぱり気を使う国だと感じます。人の気持ちを忖度するサービス産業が世界でも定評があります。

最後にアメリカは、お金を使う国と言って良いでしょう。資産運用など金融業が圧倒的に優位です。ただその弊害も多く、エスカレートするフィンテックは格差を拡大させ、マネーゲームを助長しています。

さて、このように 4 つの国の得意技を大雑把に分けてみると、これからの日本の戦略が見えてきます。広辞苑には忖度を「他人の心中をおしはかること」とあります。日本ではこの言葉が森友問題をきっかけに流行語になりましたが、本来必要以上に気をまわしたり、ましてや良からぬことを仕出かしたりするようなネガティブな意味はありません。現代の世界は、その「忖度」の対義語の「独善」「利己的」「わがまま」に満ちた国でいっぱいです。特に欧米の文化圏には人の気持ちをおしはかるという習慣は余りないようです。一方の新興国にも環境に配慮している十分な余裕はありません。

しかしながら、昨今の世界の流れは、地球のことを人類のことを社会のことを、もっと忖度した行動とりなさいと言っています。でないと地球自体が持たなく恐れがあるからです。ようやく尻に火が付いてきました。これは気を使う我が国にとっては大きなチャンスです。日本は、アメリカ、中国の顔色を過度にうかがうのではなく、もっと大きな地球を忖度する国家運営がこれからの進むべき正道に思えます。その圧倒的に比較優位で、ロボットにも AI にも代替され難い、気を使った製品やサービスを提供する忖度産業をグローバルに展開していけば、日本の将来に新たな希望が湧いてくような気がします。